

■整備コンセプト

- 災害応急対策活動拠点としての耐震性や設備機能（自家発電設備等）を確保するとともに、周辺住民が一時的に避難できるスペース（エントランス、外構等）を確保。



エントランス及び外構のオープンスペース

- 整形でゆとりある執務空間とし、光庭から光を採り入れ、利用形態やレイアウト変更に対して柔軟に対応できるフレキシブルな空間計画を実現。

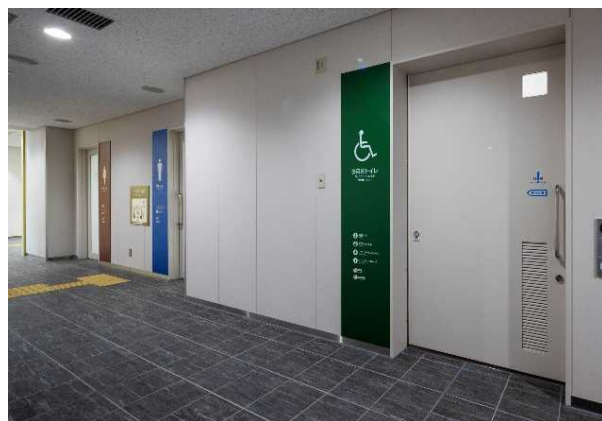


光庭

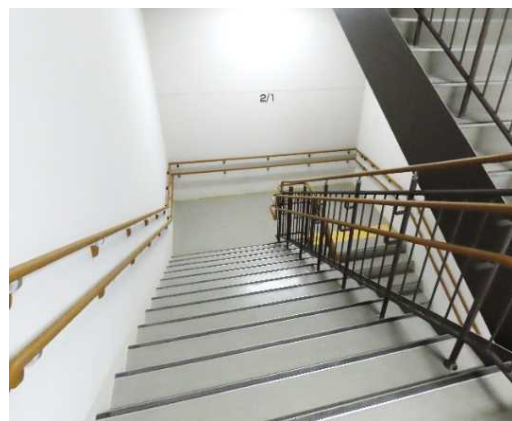


会議室

- 高齢者や障がい者等、様々な利用者の視点で、分かりやすいサイン計画とするなど、ユニバーサルデザインに基づく「誰もが安心して利用できる」整備を実施。



トイレの配置（触知サイン及び音声案内設置）



階段（2段手すり設置）

- 市民に親しまれている既存の桜（三春の滝桜の孫桜）や新たな植栽（桜、ツツジ、キンモクセイ等）により、まちの景観や歴史、自然と調和した外構整備を実施。



既存桜（三春の滝桜の孫桜）